

日刊 動労千葉

81.3.6 No682

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
電話(二九三)五六八(会務) 品三三(七二〇)七

あらゆる反動をうちくदैいて 奮ついに全線ストに突入

労農連帯の正義にかけた 動労千葉三〇〇の底力を見よ

全組合員の皆さん。全国の闘う仲間皆さん。本日、わが動労千葉は、首都圏・房総半島をゆるがす歴史的な三月決戦ストライキの最大の闘いに突入した。権力・国鉄当局・「本部」革マル分子によるスト圧殺・介入を粉碎し、全線二四時間ストライキを防衛・貫徹せよ。

△津田沼拠点▽

五日、十八時すぎから電車区講習室で津田沼支部をはじめ、新小岩・幕張両支部から約二二〇名が結集し、三月決戦スト前夜総決起集会が開催された。

本部中野書記長から「三月決戦ストは労働連帯をかけた正義のたたかいだ。これに対し、スト破り助役機関士を投入し、組織破壊を狙う当局・秋山体制を絶対に許さない」、片岡支部長は「津田沼支部は、歴史的三月決戦ストを、権力・当局・『本部』

革マルなど一切の反動をつき破って断固うちぬく」と力強く決意表明し、また支援団体からは、支援共闘会議世話人・浅田氏、三里塚反対同盟事務局長・北原氏、全関西実行委員会・中島氏、弁護会からは清井氏からそれぞれ力強い連帯のあいさつがのべられ、数時間後に迫った首都圏・房総半島をゆるがす歴史的ストライキをたたかう熱気がいやがうえにも盛り上っていった。

いよいよ本日始発よりストに入り、溝内が出庫できない電車でビッシリとうめつくされる中でスト突入集会がかちとられ、総武線二四時間ストへと進撃している。

△千葉拠点▽

千葉地区スト拠点の千葉運転区では、五日の待急・急行指名スト完全貫徹にむきつき、五日一八時より、千葉運転区・蘇我・木更津の各支部より結集した約一五〇名をもって全線スト突入のための前夜総決起集会が開かれた。桜沢支部書記長を司会にして開催され、冒頭永田千葉運転区支部長より「この歴史的決戦を喜びをもって闘いぬく」と力強い決意が表明され闘争本部を代表して関川委員長が「決戦の時がきた。当局はわれわれに挑戦してきている。これに抗して断固として全線ストに突入する。今後ともこの組織の団結を守りぬいて闘いぬく」とあいさつ。米蜜として高島

喜久男氏、遠藤弁護士が激励・決意をのべ、続いて、古川蘇我支部長・山田木更津支部長・西森乗務員分科会長が「団結固く決戦ストを貫徹しよう」と決意表明した。最後に千葉運転区小島乗務員会長、新井青年部長の決意表明をうけて、関川委員長の閉結ガンパロ、をもって、一九時一五分終了した。「しままでストとはちがう」「決戦に今こそ入るぞ」との熱気にあふれた総決起集会の大成功をもって決戦ストを力強くうちぬくとする。

反対同盟・支援共闘五〇〇余が激励デモ

五日、一五時すぎから反対同盟・支援共闘の仲間たち約五〇〇名による津田沼駅での宣伝・ピラ配り、津田沼電車区を一周する激励デモが雨をついでおこなわれた。

スト中にハンドル握るのは、助役機関士と動労「本部」派のみ

当局は、ジェット燃料列車だけは何か何でも動かすとして、空前の弾圧体制のもと、スト破り助役機関士を投入し、全旅客列車を止めるという全く常軌を逸した暴挙を行った。

ところが何と許せぬことには、助役機関士と肩をならべ、「本部」派裏切り分子は率先してスト破りジェット燃料列車を運転したのである。

しかも、「本部」派裏切り分子は、この三月決戦ストに「目的のないスト」「ジェットが止まったのは千葉動労のストのためではなく、当局が運休にしたからだ」と、全く許せぬデマや敵対を行ない、スト破壊に躍氣となっている。

このスト破りを、この骨の髄まで腐りきった根性を絶対に許すことはできない。われわれは、歴史的三月決戦ストを貫徹し、全国の闘う仲間とともに、動労大改革―日本労働運動の戦闘的再生へ更に進撃するだろう。